日本都市計画学会関西支部　学生対象ワークショップ 2025

尾崎駅周辺エリアの未来ビジョンを考えるワークショップ

■趣旨

阪南市は、大阪都市近郊にありながら山と海が近く、大阪府下では唯一の半自然海岸の浅場が広がるなど、自然環境に恵まれたまちとなっていますが、少子高齢化などにより、地域の豊かさや賑わいを維持していくことが課題となっています。このことから、市では、将来にわたり、持続可能なまちづくりを進めていくため、市役所や病院、スーパー等が集積する南海線尾崎駅周辺エリアを都市拠点として位置付け、公民が連携して、都市機能の強化や歩いて出かけやすいまちづくりに向けた取り組みが検討されています。

今回は、尾崎駅周辺エリアのまちを歩き、地域の資源に触れるとともに、エリアの価値向上・賑わいの創出につながる方策を考える、学生ワークショップを開催します。

■開催概要

主　催　（公社）日本都市計画学会関西支部

後　援　　阪南市

＜１日目＞

日　時　令和 7 年 7 月 19 日（土）14 時～17 時

場　所　阪南市防災コミュニティセンター（阪南まもる館）6 階　多目的室

（大阪府阪南市下出 14-3）

参加者　学生 28 名

＜２日目＞

日　時　令和 7 年 8 月 23 日（土）14 時～17 時

場　所　阪南市役所 3 階　全員協議会室（大阪府阪南市尾崎町 35 番地の 1）

参加者　学生 28 名

■プログラム

＜１日目＞

14:00　企画委員長挨拶および市の状況説明

14:30　自己紹介

15:15　現地視察（まちあるき）

①阪南市防災コミュニティセンター→②阪南市役所前（尾崎駐輪場跡地）→③阪南市民病院→④尾崎駅前→⑤本願寺尾崎別院→⑥浪花酒造→⑦成子家住宅→⑧波有手の牡蠣小屋（西鳥取漁港）

尾崎駅周辺エリアを阪南市役所の職員の案内で視察しました。初めに、市役所周辺エリアにおいて、市がまちづくりチャレンジトライアル・サウンディングを実施している尾崎駐輪場跡地を視察しました。次に尾崎駅前エリアでは、整備された駅前広場や駅前道路の様子に加え、空き店舗が見られる状況を確認しました。浜街道周辺エリアでは、地域資源である本願寺尾崎別院や浪花酒造、国登録有形文化財の成子家住宅の内部を視察しました。最後は、海沿いに西鳥取漁港まで移動し、波有手（ぼうで）の牡蠣小屋を視察するとともに、班ごとに別れ、まちを歩いて気づいた点や感じたことを共有しました。

尾崎駐輪場跡地

本願寺尾崎別院

浪花酒造

波有手の牡蠣小屋

17:00　解散

＜２日目＞

１　各班の発表

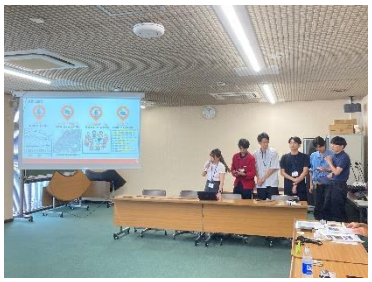
・発表の順番は、くじ引きで決定した（４班→１班→３班→５班→２班）。

・発表 10 分、質疑応答 5 分で行った。

４班

１班

３班



５班

２班

２　審査体制

以下の４名による審査委員会により審査を行った。

上甲　　誠　（阪南市長）

熊谷　樹一郎（日本都市計画学会関西支部企画委員会委員長／摂南大学理工学部都市環境工学科教授）

森　　喜彦　（日本都市計画学会関西支部企画委員会副委員長／兵庫県まちづくり部住宅政策課）

大北　志帆　（日本都市計画学会関西支部企画委員／大和ハウス工業株式会社）

３　講評

審査委員から、各班に対し講評を行いました。講評の概要は以下のとおりです。

１班（上甲委員）

サイクリストの拠点をつくるというコンセプト。発表にあたって、りんくう公園から自転車で走ったということに驚いた。海沿いは、堤防が高く、海が見えにくいことが課題と認識しており、対応していきたい。また、和歌山方面への拠点となるよう、本市の地域性を捉えた提案になっていた。

２班（大北委員）

中心部に市民農園をつくることで市の新たな魅力を発信するという案であり、実現可能な印象を持った。農園での“つくる”、体験する”ことを楽しむことに加え、子ども食堂との連携など、社会や地域への貢献にもつながるところが良かった。

３班（森委員）

メインストリートの整備による人の流れの創出とスーパー堤防化によるシーサイドの活用を提案するものであり、課題に対して、都市計画的な手法を用いてシンプルに解決を試みようとする力強い提案だった。一方で、歴史的な建物の維持・保全と道路の拡幅などの一方が立てば、一方が立たないジレンマに対して、検討を重ねた第３の案を提案できれば、さらに良かった。

４班（森委員）

空き家を活用したスタートアップにより、にぎわいを創出するという提案であった。都市近郊にありながら、自然に近いことがスタートアップに適しているという提案に止めず、市にマッチしたスタートアップの業種がどういったもので、それを市として応援することで、市民の暮らしがどう良くなるのか狭く深くできると提案の切れ味が増したのではと感じた。

５班（熊谷委員）

“健康”と“まちづくり”を関連させた提案である。健康に着目した取組は、各自治体でも既に実施されているが、うまくまちづくりに展開できているものは、見られない。そのような中で、今回は、LINE のミニアプリの活用など、導入コストの削減の具体的な提案に加え、まちの持続的な発展までの流れが、３段構成で丁寧に説明され、最終的には、これまでの市の魅力に磨きがかかるような提案であった。

４　審査結果

厳正なる審査の結果、以下のとおりとなりました。各賞を受賞された方には、後日賞状をお送りしました。

最優秀賞：５班

優 秀 賞：１班

最優秀賞５班がコメントする様子

優秀賞１班がコメントする様子

5　全体講評

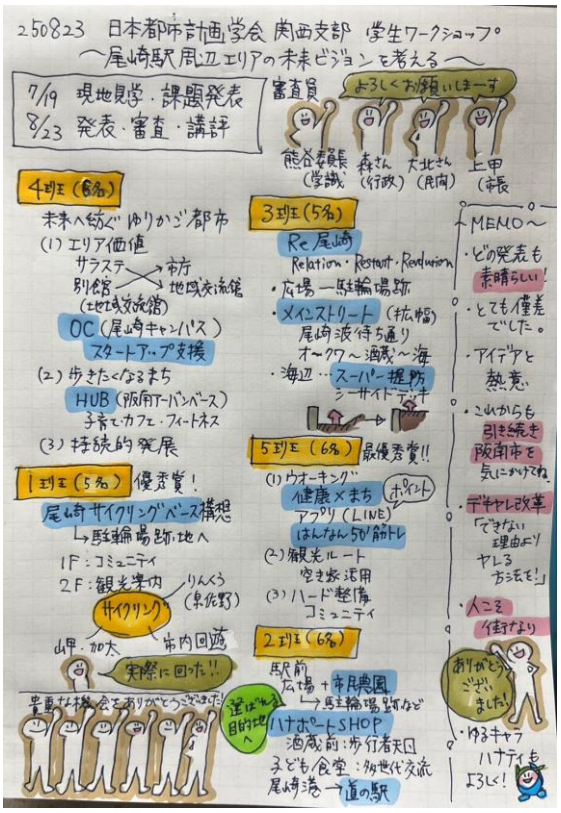
（上甲委員）

私は、元々、建築設計に携わっており、独立して地元で事務所を立ち上げた。地元に戻ると若者は、自分ぐらいしかいなかったこともあり、自治会などを含め、様々なボランティア活動を経験した。ボランティア活動は好きだったが、それでは稼ぎにならないため、昼間はボランティア活動をし、夜に設計事務所の仕事をするという毎日だった。しかしながら、このままでは、体が持たないことに気づいたときに、市議会議員を勧められ、市議会議員になることになった。それから、市議会議員を 12 年務めた後に市長になった。このような経験からまちづくりも大好きで、特に人との関係づくりが大事だと考えるようになった。

今日いただいた提案の中にも、人との関係をつくる提案がたくさんあり、若い学生たちがこのような提案を考えてくれて、とても刺激になった。提案の中には実現が難しいものもあるかもしれないが、市役所の職員には、できない理由を言うよりやれる方法を考えようという“デキヤレ改革”が大事だと言っている。

今回のワークショップを通して、市を身近に感じてほしい。みなさんの熱意を受け取って、阪南市をさらに良いまちにしていきたい。

全体講評の様子



上甲委員によるグラフィックレコーディング

6　最後に

参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。また、本ワークショップの開催にあたり、多大な御協力を賜りました阪南市の皆さまに重ねて御礼申し上げます。